

平成28年度 学校評価（職員対象）長崎県立佐世保中央高等学校夜間部

キャッチフレーズ	チャレンジ全開。佐世保中央Three-Arrows（決して折れない-三本の矢）
学校教育目標	佐世保中央高校の全職員は、保護者とともに生徒の夢の実現のために全力を尽くす。【知】
	佐世保中央高校の全職員は、生徒及び保護者、地域の方々と心のふれあいをめざす。【徳】
	佐世保中央高校の全職員は、すべての生徒とともに凜とした生き方をめざす。【体】

<評価>・・・4 十分達している 3 おおむね達している 2 どちらかという達成されていない 1 ほとんど達成されていない

評価項目	No.	具体的方策	今年度
1 学校経営			
努力目標	1	不撓不屈の中央魂の継承と発揚に努める。	2.9
	2	「学び直し」の機会を設け、基礎的な学習の定着を図る。	3.2
	3	生徒会活動を強化して、楽しくしかも感動的な特色ある学校行事づくりに努める。	3.2
	4	中学校訪問や1年次2人担任制により生徒・保護者の状況把握に努め、導入期の定着指導に活かす。	3.3
2 教育活動			
教科指導	5	基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力の習得の徹底を図る。	3.2
	6	生徒の実態に応じて指導方法や指導形態を変えるなど、授業の創意・工夫に努める。	3.2
	7	資格・検定取得指導の強化を図る。	3.0
総合的な学習	8	職業理解に関する様々な活動を通して、自己実現を目指す。	2.9
	9	生徒の実態等に応じ、学校の特性を生かしたものを取り入れるような検討・研究を行う。	2.9
3 組織運営			
校務分掌	10	学校全体の校務が円滑に推進できるよう、分掌相互間の連携を図る。	3.2
校内研修	11	校外研修の内容によっては、研修受講者がその内容を自校の職員に伝達し、知識の共有に努める。	2.9
4 教育環境			
学校環境の整備	12	清掃の時間に率先垂範して生徒への指導を行い、日頃から環境美化に努める。	3.3
施設・設備の管理	13	施設・設備の安全点検や補修を定期的に行う。	3.1
情報基盤の整備・充実	14	パソコンによる校務処理を積極的に推進するとともに、データの共有化を図る。	3.2
5 開かれた学校づくり			
保護者との連携	15	P T A総会への出席率をあげる。文化祭バザーを支援する。	2.8
地域や関係機関との連携	16	教育方針や具体的な教育活動の内容について、適切な情報を地域や関係機関に提供し、連携をはかる。	2.9
	17	勤労生徒への激励をするとともに、働きながら学べる環境づくりをする。	3.3
	18	公開講座や社会人講座の充実に努め、広く活動内容をPRする。	2.9

6 校務分掌			
教務部	19	授業時間の確保に努め、充実した学習指導が行われる時間割編成を工夫する。	3.4
	20	生徒の単位修得が確実に行われるように必要な情報を共有し、効果的で計画的な指導に努める。	3.4
	21	各分掌・学年・教科との連携を密にして校務や行事の円滑な運営に努める。	3.4
生徒指導部	22	高校生としての基本的な生活習慣を確立させ、交通安全の意識を高め、交通事故ゼロを目指す。	3.0
	23	問題行動の未然防止という観点から生徒指導を行い、問題事案発生件数の減少を目指す。	2.9
生徒会指導部	24	生徒会行事を通して、生徒間の親睦や交流をはかり、中央夜間としての自信と誇りを持たせる。	3.3
	25	生徒会の諸活動や部活動を通して、学校生活を楽しく、充実させる。	3.2
進路指導部	26	年次ごとの進路指導目標に即した、的確な進路支援をおこなう。	3.1
	27	個々の生徒の適性に応じた進路実現を系統的・計画的に図る。	3.3
	28	進路の情報収集をよりの確に行い、進路指導の充実を図る。	3.4
保健相談部	29	自己の健康及び疾病予防等についての理解を深め、健康の保持増進に留意する。	3.4
	30	健康で活動的な学校生活を送ることができるように安全衛生管理に努める。	3.2
	31	特別支援の必要な生徒に対し、組織的に多様な支援を行う。	2.9
	32	問題を抱える生徒に対して、迅速に組織的に対応する。	3.3
	33	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び関係機関と連携を図った効果的な支援を進める。	3.2
	34	全職員が、カウンセリングや人権教育に対する理解を深める。	2.9
7 学年			
1年次	35	高校生としての自覚にもとづき基本的な生活習慣を確立させ、安心して学習できる環境をつくる。	3.0
	36	卒業後の進路を見据え、基礎学力の定着と向上を図る。	2.9
	37	集団生活に必要なコミュニケーション能力の確立を図る。	2.7
2年次	38	中堅学年としての自覚を持たせ、落ち着いた学校生活を送らせる。	2.5
	39	卒業後の進路実現に向けて、学力および社会への適応力を着実に身につけさせる。	2.6
3年次	40	最高学年としての自覚を持たせ、周囲に対し配慮ある行動をとることができる人間形成を目指す。	2.9
	41	進路実現のため、基本的な生活習慣を確立させ心身ともに健康で実践力に富む人材の育成を図る。	3.1